

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100216		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム三瀬		
所在地	佐賀市三瀬村三瀬38番地1		
自己評価作成日	令和3年3月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年5月28日	外部評価確定日	令和3年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>リビングからの眺望がすばらしく、居ながらにして緑豊かな三瀬村の景色を優雅に満喫できます。全室個室で各部屋にトイレも完備しており、プライバシーの確保ができています。(トイレに行くまでの距離と時間を短縮でき自立に向けてのメリットがあります)ご自分の個室で自由に過ごして頂きながらもご自身の意思でリビングでも過ごして頂けるよう声掛け等の配慮をしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>山間の長閑な環境に建ち、各居室や共用部分からは遮るものもない眺めが広がっている。事業所の自慢のひとつである。利用者の受け入れを概ね要介護3までとし、隣接する特別養護老人ホームがその後の選択肢になっている事は、同法人ならではの連携が窺える。また、浴室にチェアインバスが導入され、利用者の転倒リスクや職員の身体的負担が大きく減っていることも事業所の特長である。慢性的な職員不足は努力とチームワークによって補いつつ、利用者の想いに応えようとしている。法人の上席にはきちんと現場の声を届ける管理者もいる。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として、 ・私らしく生きるために、人と触れ合い、優しさと思いやりを持って、心と体の健康をサポートします。 ・住み慣れた地域の中で、共に支え合い、自らの能力を活かし、穏やかに暮らすことができるように努めます。 理念の共有方法として、オリエンテーション時の説明、事業所内に掲示し、理念にある接し方を日々努めている。	3年前の開設時、管理者が想いを込めて創り上げた理念である。目に付く場所に掲示し、意識付けを図っている。また、新人研修時にも、常に立ち戻る基本として説いている。日々の暮らしの中で利用者から感謝の言葉が聞かれたり、表情にその様子が見て取れた時には理念が活かされているのを感じている。隣接して複数の法人施設がある中で、グループホームとして独自の理念を掲げ、ケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の定期的なボランティア訪問で生け花交流を行い、地域とのふれ合いに努め、身近な場所への外出を行い、法人主催の敬老秋祭りや婦人会による慰問、佐賀市三瀬支部文化発表会などへ参加(見物)し交流に努めている。	法人が主催する夏祭りでは地域住民も招き、屋台も用意されていた。ボランティアで訪れる方がいたり、利用者もまた、地域の催し物に出掛け楽しんでた。しかし、現在のコロナ禍では全てが自粛である。そのような中でも日常の散歩道での出会いなど、ささやかな交流は続いている。近隣住民による見守りや連絡を頼める関係も途切れることはない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現事業所状況においては、実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催。会議では利用状況、サービス状況等を報告。行事や地域活動など情報を頂きサービス提供へ活かしている。評価等への取り組みや改善案などについては、必要に応じて随時報告を行っている。	メンバーが集まる会議では約一時間を要し、事業所からの報告のみではなく、双方向な意見交換の場となっている。行政側は代理でも出席者を出し、地域からは民生委員の参加もある。この会議を通じてメンバー同士が顔見知りとなり、相談し合える雰囲気となっているのは、地区の高齢者に詳しい民生委員が行政側へ問い掛けを行う場面からも窺える。コロナ禍の現在、集合を控える判断も増えているが、休会時には資料を届け、理解と支援が得られるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保険者である佐賀中部広域連合や地域包括支援センター、行政等と連携に努め、必要に応じ空き状況や利用に関する相談、料金などの情報交換を行っている。	行政側とは顔なじみであり、担当者に異動があれば、連絡や来所しての挨拶もある。問い合わせ等があれば電話やメール、また直接出向くこともあり、実直に対応してもらえる関係は築いている。事業所は大きな法人に属しており、内部で解決できるだけの人材やスキルもあるが、行政側との協働関係も大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関以外の出入口は段差もあり、危険防止の為、日中も施錠しているが、中庭で畑を作ったり建物外への散歩などで閉塞感を感じさせないよう支援に努めている。身体拘束に関するマニュアルを作成、職員へ周知徹底に努めている。 2ヶ月に1回の運営推進会議で入居者に対する身体拘束状況を報告している。 ケア提供状況に応じて、身体拘束にあたるか否かなど検討確認を行い、身体拘束がないよう取り組んでいる。	入居契約時に指針の説明を行っている。研修は、必ずどれかに参加できるように年3回計画され、職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。止むを得ず実施する場合も、安全面や家族等の承諾を理由に正当化することなく、実施を止めるための工夫や方法を話し合う事としている。仮に不適切な場面等が見られた場合は、全体の事として問題提起される。玄関に施錠は無く、センサーは設置されているが、利用者の行動を抑えるものではない。普段の様子や表情から外へ向かう状況は察知され、職員には日頃から人数を数える習慣もあり、安全な暮らしが支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを作成、職員へ周知徹底に努めている。また、入浴時の全身観察にも留意している。 年1回法人施設内において、高齢者虐待についての職員研修会を開催。研修会で学んだ事を職員同士情報を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は安心サポート、成年後見制度について学び、対象者があれば関係機関へ相談できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約手続きの場合、書面にて説明し同意を得ている。気になる点については、理解が得られるよう分かり易い言葉で説明を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所玄関側に意見箱を設置。契約説明の際に第三者苦情、相談窓口を説明。ご家族等の意見については、運営推進会議や面会来所時など意見や要望等があれば、必要に応じて対応、速やかに改善を行うよう努めている。	通常であれば、家族の来所も多い事業所である。コロナ禍の現在、家族が受診へ付き添う時間が面会も兼ねている。その際には、職員も家族に話し掛け、希望や意見が出やすいよう努めている。出された意見等には前向きに活かす姿勢や体制もある。また、毎月の利用料請求時にはホーム便りを同封し、日頃の様子をスナップ写真やコメントで伝えている。県外に住むキーパーソンもいるが、電話連絡等は臨機応変に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフ会議や年2回個人面談、その他日頃職員から意見があがった際に、協議を行い業務改善、効率化や処遇改善に努めている。	毎月のスタッフ会議は約一時間を要し、カンファレンス(必要な利用者のみ)や研修参加者の報告・勉強会、周知事項等々を行っている。限られた時間をスムーズに進めるための工夫もある。各自が考えをまとめておけるよう内容の事前周知や、取り上げてほしい案件がないか募っている事もその例である。最近の会議では、利用者の反応を取り上げ、それが職員間での共有に繋がり、チームワークの良さも窺える。また、管理者としては働きやすい職場であるよう日頃から職員とのコミュニケーションを大切にしており、休暇取得や定時での終業にも配慮している。現場の声に耳を傾け、意見は法人上席にも届けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価表を設けて職員の努力や目標に対する姿勢を把握し、個人面談を行いながら、職員の悩みや意見を聞く場を設け処遇改善、環境整備改善など努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内施設内研修会や施設外研修会へ参加できる機会を設け、事業所内において研修報告を伝達している。介護業務に役に立つ情報があれば、資料を配布し職員間での情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会への参加や法人内研修会、勉強会などで意見交換や交流を図り、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前にご本人並びにご家族と話し合いを設けて、現在困っていることや、不安なこと思いや意向など、ゆっくり傾聴できるように努めている。 入居初日は特に不安なく過ごせるよう、職員は声掛けや促しを意識し、ご本人の好まれる居心地のよい環境作りの配慮に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望、サービス利用についての意向や思いなど、傾聴に努め可能な限り意向を尊重し対応。状況を確認・把握しながら必要と思われる提案を行い慎重に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人とご家族の要望を伺い、優先順位を考えうえでサービスを利用して頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご本人共に暮らしを営み、協働する事で人生の先輩から学んだり喜びや悲しみも分かち合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際は、積極的にご本人の状態を伝えながら同時にご家族の意向も伺い、ご家族にも出来る事は協力してもらう事で、共にご本人を支えていくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前通っていた施設へ職員と訪問したり、ご家族の協力支援により、馴染みの床屋や美容院へ外出。事業所へ近所の方や知人の来所があった際、ゆっくりと交流できる場の提供に配慮している。	入居までの人間関係を把握する際には、本人や家族、また担当のケアマネージャーや利用していたサービス事業所、ケースによっては病院関係者からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援が組まれている。盆正月の帰宅や墓参り、法事への出席等は当たり前の事として支援されていたが、コロナ禍では機会も減少している。しかし、電話の取り次ぎや、家族と馴染みの理美容院へ出掛けることは、これまで通りに可能である。普段は閉めている自宅へ帰ってみたいという希望には、家族に合流してもらおう事で想いに応えている。厳しい状況下でも出来る事を支援し、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの余暇活動や会話がしやすいよう座席配置に配慮。協働作業を行う際も入居者様同士の人間関係を把握し、スムーズに活動が行えるよう配慮している。対話の少ない入居者には、可能な限り個別に職員が声掛け配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所されても、ご家族とは入院経過を伺い、必要に応じて関係機関等との連携や情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に本人、家族に思いや暮らし方の希望、入居に対しての意向も把握し、アセスメントや日常会話の中からこれまでの生活習慣や生活リズム、過ごし方など情報収集に努めている。意向困難な場合は、無理に入居を進めずご家族へ確認、本人の意向把握に努めている。	センター方式を利用し、出来る事や出来ない事、分かる事や分からない事等々を聞き取り把握している。日々のケアの中でも入浴中の寛いでいる時や、一対一で話し相手をしている時などは想いを話してくれる事がある。聞き取った事は口頭や業務連絡ノート等で共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。また、自己評価の中には利用者の希望に沿っていない場面もあると記した項目があり、叶えたくても叶えてあげられないジレンマが窺える。様々な要因を抱えながら、現場の職員は助け合いながらケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報・アセスメントシートの様式及びセンター方式を活用する事で、生活歴や暮らし方、生活環境など情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化表を活用する事で、生活リズムや心身の状態を把握し、小さな変化に気付いて現状を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議やケアプラン作成協議ノートを活用し、随時及び更新前月にスタッフ職員よりプランに対する評価、新たな問題(ニーズ)など情報、意見を収集しモニタリング、アセスメント作成し、ケアプラン(介護計画)の作成に努めている。また家族へ課題とケアのあり方について面談。ケアに対する希望を賜る。	ケアプランの見直し期間は、短期目標で6か月毎、長期目標では一年毎となっている。その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。利用者の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時等の会話から汲み取っている。多くの家族が望む現状維持については、日常の動作が生活リハビリである事や、役割を持って暮らす事の意義も伝えている。いずれ来る身体能力の低下についてもきちんと説明している。ケアプラン切り替え時期が近づけば、現場の職員に尋ねながらモニタリングを行い評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌へ健康状態や日々の状況を個別に記録。申し送りなども含め入居者の状態変化など情報共有に努め、臨機応変な対応や計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズに対し可能な限り柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの来所によって、地域交流の場になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される方と往診を希望される方とに分かれ、ご家族の協力も得ながら受診や往診に対応している。必要に応じてかかりつけ医との連携に努め、健康維持に繋がるよう支援している。	入居前からの馴染みの医師の元へ通う方や、協力医をかかりつけとして往診を受けている方もある。法人母体が病院であり、健康面や医療面での不安はないと答える家族もいる。受診に向く際には家族が同行するため、日頃の様子や前回の医師からの指示結果など、確実に伝えられるよう配慮している。また、他科受診が必要な場合は、かかりつけ医に相談することでスムーズな対応が出来ている。時間外(夜間など)の対応も同様である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて、かかりつけ医の看護師及びご家族へ相談、報告。早期診察や対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際、病院関係者(ソーシャルワーカー)と情報交換を行い、入院中もご家族やソーシャルワーカーと連携に努め、退院になった場合も同様に連携を通して関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人より、当施設では終末期の対応は行わない。 重度化した場合や終末期のあり方については、契約の段階で介護の重度化へ状態が変化した場合、対応可能な他施設への調整支援に努めます。	入居契約時に看取り対応は行わない旨の説明をしている。事業所への入居は概ね要介護3までを目安としており、隣接する法人の特別養護老人ホームが選択肢のひとつとなっている。介護度が進むにつれ現状を説明し、納得して次の施設が検討できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議などでAED、緊急セットの配置、使用方法の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署や地域の方の協力も得て、法人全体で避難訓練、自主訓練を実施。その後、参加できなかった職員に対し、職員会議時に伝達講習を行っている。	年2回の訓練のうち、一度は消防署も立ち会っている。敷地内の法人施設と合同で行い、時間帯は昼間である。夜間は想定のみで、その際には夜勤者とみなした職員一名でまず対応するが、見守る周囲は自分事として真剣である。一斉連絡網には近隣住民の登録もあり、非常緊急時には協力者である。利用者と一緒に避難を体験し、職員は消火器の使い方も承知している。自動火災報知設備やスプリンクラーが設置され、非常食や水等の備蓄は特別養護老人ホーム側にある。訓練での気付きや反省点はその時その場で指摘され、改善に繋げている。	広い敷地内に複数の法人施設が建っている。事業所とは近い建物もある。非常時にはその敷地内に戻れない可能性もあり、外部の避難場所への手順と確認、また、その場所を家族へも周知しておく事などの検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員、個人情報保護に関する契約を交わし、ご利用者一人ひとりを尊重した言葉かけに十分配慮して対応を行っている。	入浴やトイレでの介助は、羞恥心などへの配慮が最も求められる場面である。必ずノックをする、トイレドアの開きは最小限で確認する等々、基本的なことをきちんと行っている。事前の情報収集から、入居して間もない時期は同性で対応することもある。また、個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、職員間の業務やり取りであっても、声の大きさには注意を払っている。ホーム便り発行もあり、入居時には写真掲載等の承諾を得ている。居室の名札掲示も同様である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ分かりやすい言葉かけを行い、自己決定ができるような対応を行っているが、ご本人の希望に添えていない場面もあり、職員が不安に思う時がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の大まかな流れはあるものの、個人への声かけ、随時意向を確認しながら、自身の生活ペース、気分や意向を尊重して気持ちに寄り添いながらゆっくり過ごして頂くよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔保持、季節に合った装いといった点について、気を付けているが、おしゃれ等はご自身で取り組んで頂いている。ご家族の協力もあって、馴染みの店で散髪をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食のつぎ分け、各お膳へ配る作業、食事後に食器を洗うなど職員と一緒に協働して頂き、食べる喜びを感じて頂けるよう支援している。	献立は隣接する特別養護老人ホームの管理栄養士によって作られている。朝食は事業所内で用意するが、昼・夕食は主菜、副菜、汁物まで隣接施設で一括調理し届けられている。事業所では炊飯のみである。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材や献立には管理栄養士がきちんと対応し、代替えが提供される。利用者には食欲もあり、介助が必要な方はいない。職員は少し離れて、しかしすぐに駆け寄れる位置のキッチン側に立ち見守っている。現在は夕食のみ検食者一名が同席している。誕生日は当日、またはまとめて祝い、本人にはケーキも添えられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の献立に基づく食事提供。自ら水分を積極的に摂られない方には、職員が声かけ促しを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け促しを行い、状況に応じて義歯洗浄やケアの介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご本人の訴えと職員の声かけ支援でトイレ誘導や聞き取りで個々に合った支援を行っている。	排泄に関して、利用者の殆どが自立しているが、さりげない見守りも行っている。トイレの場所へ誘導することや、タイミングを計った声掛けがそれである。入居後の排泄チェック表が活かされ、パット類の使用枚数が減り、費用負担の軽減に繋がった改善例もある。トイレ内の設備ではL字型手摺りや、背もたれと一体型の可動式ひじ掛けが挙げられる。背もたれや両側のひじ掛けによって座位は保ちやすく、立ち上がりはL字型手摺りが助けている。居室内のトイレにも同様の設備がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や軽運動などの実施。排泄チェックにより体調維持に繋がるよう個々に応じて排泄状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの要望や心身状態を考慮しながら入浴回数も決定し、その日の体調やご本人の都合に応じて入浴日を変更するなど、ニーズに合わせた支援を行っている。	入浴は概ね週2回を目安にしている。事業所の特長はチェアインバスの導入である。専用のシャワーチェアに座ったまま入浴が出来るもので、利用者の安全確保と職員の身体的負担減については画期的な設備である。午前中に入浴してもらい、拒む方はいない。一人ずつ、ゆっくりと浸るひとときに想いを話してくれる利用者もある。浴室、脱衣場共に暖房設備があり、冬場のヒートショック対策となっている。安定感のあるベンチでの衣服の脱ぎ着は、出来るだけ本人に任せ見守っている。湯上りには椅子に座った高さで大きな鏡があり、髪などを整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や夜間の環境整備に努め、安眠の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセスメントなどから服薬情報、状況確認を行い、ご家族、事業所看護師等を中心に処方に基づいた服薬ができるように支援している。内服薬で気になる点やご利用者の変化については、随時ご家族、かかりつけ医等へ報告、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり心身の状態やその日の気分などに応じて、余暇活動の提供や洗濯物干し、たたみ、掃除などの役割を持って過ごして頂けるよう支援している。天気の良い日は、事業所周辺の散歩や畑作業、外周りのゴミ拾いや外で洗濯物を干すなど在宅での生活を意識した支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を企画できる時は、車で出かけられる事もあるが、普段は事業所や隣接する事業所の敷地内を散歩する事もある。また、ご家族へ外出行事への付き添い協力の声掛け促しも行っている。	通常であれば、年間行事で花見やドライブ等が組まれていたり、受診の帰りには家族との外食もあった。コロナ禍では控えることばかりだが、時にはドライブに出掛け、目的地の出入をみて降車か否かを判断している。広い敷地内での散歩は日常的に支援され、利用者は日差しを浴び、五感の刺激にもなっている。不自由な暮らしが強いられる状況だが、全く外へ出ないという利用者はなく、想いに沿った支援が出来るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の継続、認知力低下予防などの意味で金銭管理や取り扱いは大切だと考えるが、サービス提供時におけるトラブル防止の為、所持しない。管理はご家族に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用開始の時点で、社会交流などの面で活動域が低下されている方が多く、なかなか電話や手紙のやり取りをする機会がないのが現状。遠方に住むご家族や親類などからの電話は、取り次ぎ介入支援は行っている。携帯電話を所持されている方もおられ、電話の扱いが分からなくなった時など、介入支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候に応じ、室温や湿度、換気などに配慮し、季節の花を飾ったり、環境整備に努めている。	事業所は東西に長い建物で、北側は法人施設、南側は見下ろす斜面になっている。その南を向いた各居室やリビング等からは新緑の山々と、田植えが済んだばかりの水田が広がり、遮るものがない眺めである。玄関からまっすぐに伸びた廊下は50メートル程で、ところどころの壁際に椅子が置かれている。手摺りを伝い、筋力維持のためにも歩行練習をする光景が見られる。利用者の動線上に行動を妨げる物はない。山間の静かな環境にあり、騒音はなく、リビングへ差し込む光はロールカーテン等で調節している。自分の役割りとして掃除を手伝う利用者もあり、そこには日常の暮らしが垣間見える。手を触れる箇所の消毒はこまめに行い、換気には特に配慮している。居室も同様である。トイレや浴室もきれいに掃除され、嫌な臭気はない。年に一度、専門業者による清掃もあり、清潔な事業所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みのテーブル席の配置。気の合う少人数で過ごせるよう居場所作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやクローゼットの配置は必要に応じて、ご本人、ご家族と検討対応している。タンスやテーブルなどは、使い慣れた物を持参して頂いている。	居室に持ち込む品物には火気等の危険物以外に制限はない。縦長のクローゼットは備品としてあるが、使い慣れたタンス等も持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう支援している。配置や飾り付けは本人と話しながら決め、家族の写真を飾る利用者もある。各居室には空気清浄加湿器も備えてあり、寝具とリネン類は毎週交換され清潔を保っている。非常時でもドアを塞ぐような家具類の配置はなく、スムーズに退室避難が出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計、動線域において障害物に配慮し廊下やトイレ内に手すり等を配置、安全性を確保。できる限り自力で移動、日常を過ごして頂けるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない